

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

**\*本田乾板(彗星 1970a ? 1970年1月28日)1枚収蔵**

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室では国立天文台の旧図書館(昭和5年(1930年)建設)の1階に保管されている古い天体写真乾板等の整理を進めている。この作業の一環の中から昭和20年2月の本館消失で失われたと思われていた100年以上前に撮影された写真乾板が発見され、日本人最初の小惑星発見の写真乾板が出てくるという大きな発見もあった。天体写真乾板の整理は佐々木君、大島君が進めており、筆者はこの物置状態の棚から確たる資料とも思えない雑物の整理を引き受けている。今回は1枚の乾板(彗星1970a?)が入れられ郵便で送られた印画紙の箱(写真1)を収蔵した。

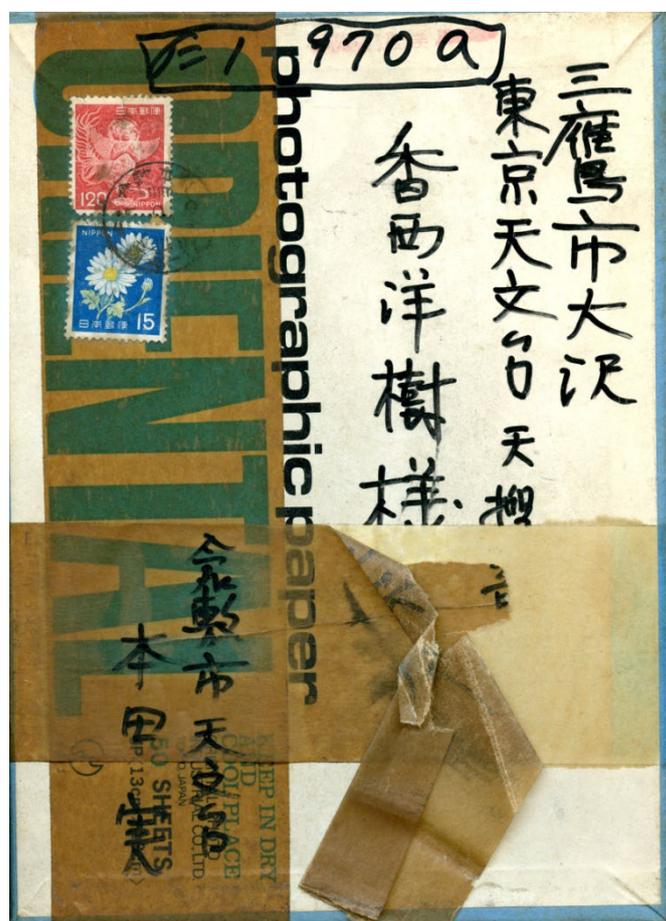


写真1 乾板が送られた印画紙の箱

今回も入っていた乾板は1枚である。乾板の袋には、わし座、1970年1月28日撮影、撮影時刻は5時49分~5時56分(露出時間は7分ということになる)、望遠鏡(カメラ)は210mmフジナー、ホンダと書かれている。今回の箱には本田氏からの手紙が入っていて、

彗星 1970a が写っているか調べてほしいとあった（写真2）。

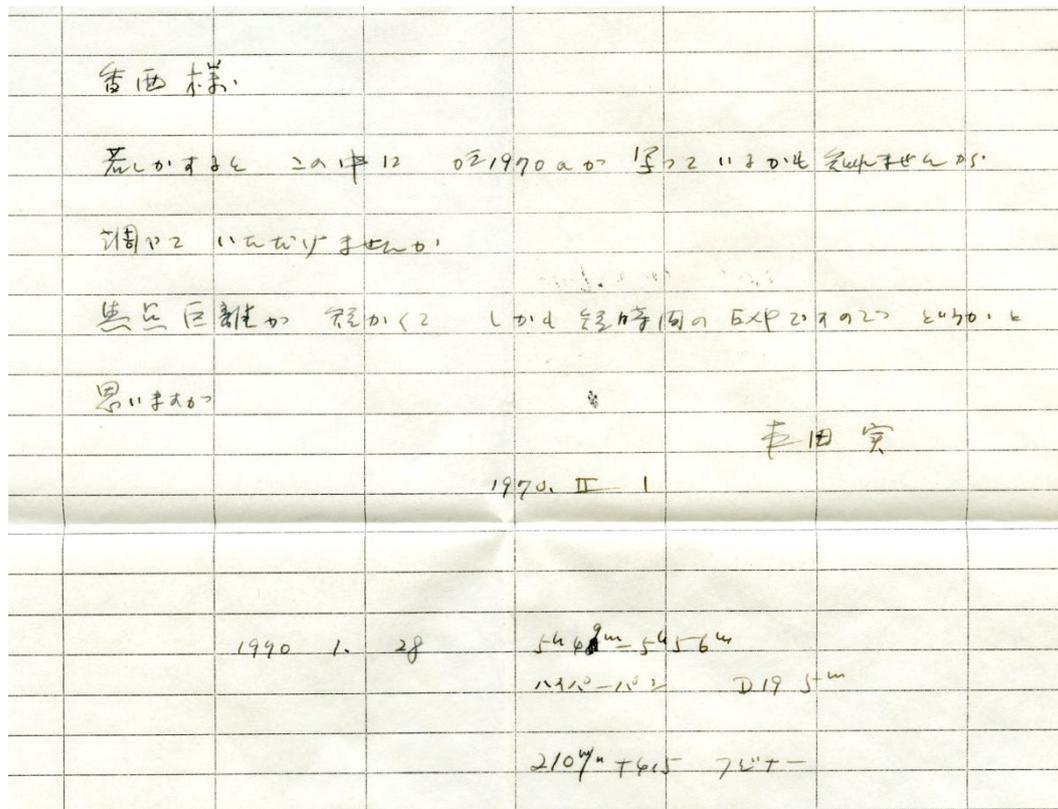


写真2 箱に入っていた手紙

この手紙は21日に書かれ、「若しかするとこの中に彗星 1970a が写っているかも知れませんが調べていただけませんか。焦点距離が短くて、しかも短時間の露出ですのでどうかとは思いますが」とある。また撮影年月日として1970年1月28日5時49分～5時56分、乾板はハイパーパン、現像はD19 5m 210mm+415 フジナーとある。

乾板の印がかった部分を拡大したものが写真3、更に拡大したものが写真4である。

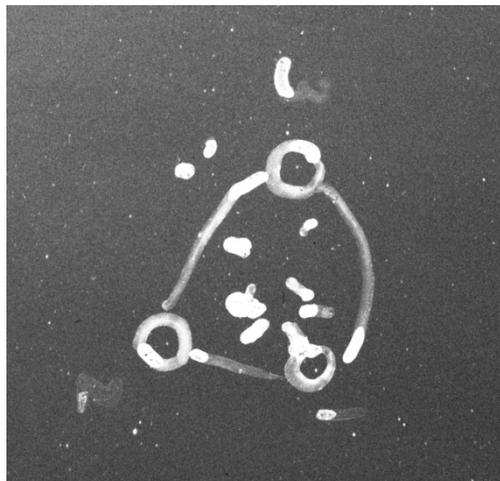


写真3

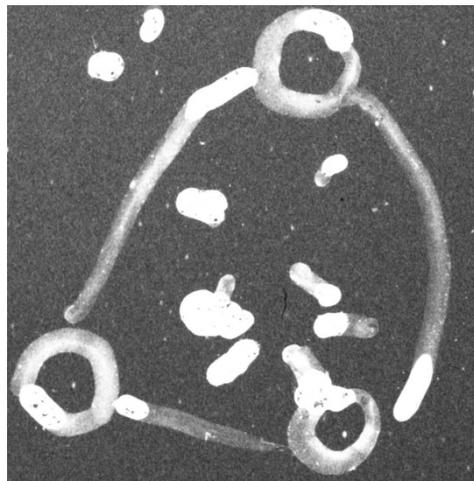


写真4

この程度では、この印の中に彗星が写っているかどうか、よくわからない。そこでさらに拡大したものが、写真5、6である。

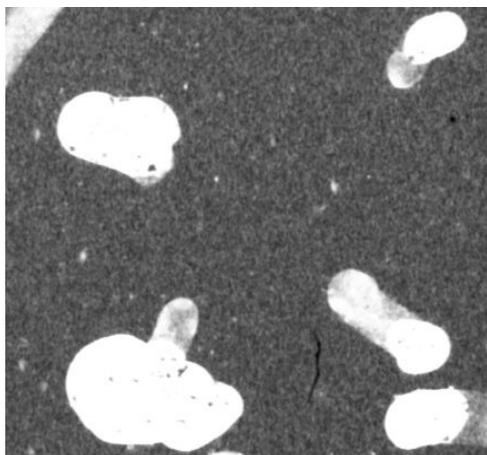


写真5

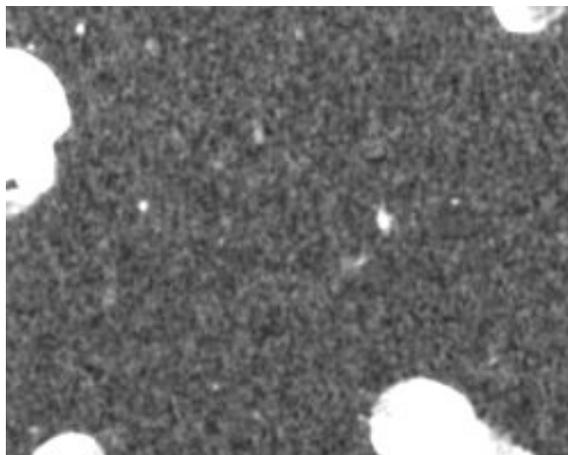


写真6

さらに拡大し、画像処理をして浮き上がらせたものが写真7である。

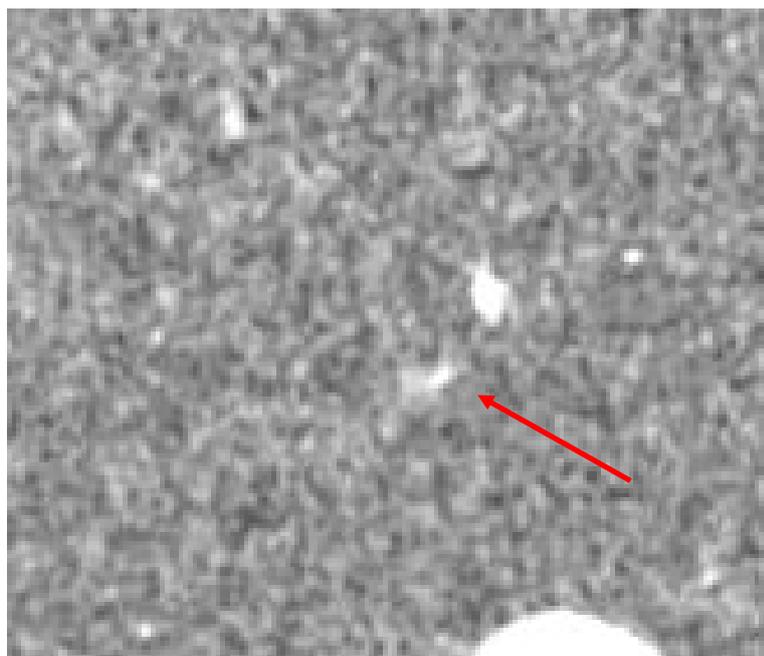


写真7 赤い矢印が彗星か

ここに残っている乾板、資料(手紙)だけからはこの乾板に移っていた像が彗星 1970a であつたかは分からないが、確かに他の星像とは異なる天体が写っているようには見える。

拡大する前の乾板の像が写真8である。この写真は地平線近くを撮影したらしく、左上の方には地上の像が日周運動で流れて写っている。この写真で見える限り、地平線近くまで空が暗かったように見える。1970年には倉敷天文台の周りでもこんなに地平線近くまで天体写真が撮れたことに驚く。



写真8 左上は地平線の地上と思われる

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)